

【1】数詞の言葉かけ まず、数を唱えられるようにしましょう。個数の理解とは切り離して教えることが大事。すぐに唱えさせたくなりがちですが、耳から数詞をインプットすることから始めましょう。

①歩きながら

「いち、に、いち、に。」



②階段を上りながら

「いち、に、さん、し。」



③体操をしながら

「いち、に、さん、し、  
ご、ろく、しち、はち。」



④ボールを投げ上げながら

「いち、にのお、さ～ん！」



⑤湯船に浸かって、

「い～ちに～、さ～んんしい～  
ごおろ～く、しいちは～ち、  
きゅううじゅう。」



## 【2】個数の基礎

「いち、に、さん。」と数唱できても、まだ個数はわかりません。

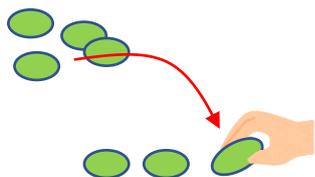
しかも、日本語は「1個」と言ったり、「一つ」と言ったり。言い方が複雑です。そのような事情もあって、個数の理解には時間がかかります。一度に3個も4個も教えるのではなく、1個（一つ）からゆっくり教えていきましょう。



①手に持たせて「一つ」「二つ」（1歳・2歳）

何か物を上げるときに、「はい、一つ。」と個数を言って片方の手に渡します。「二つ」は両方の手に一つずつ渡してあげましょう。

「三つ」は両手がふさがった状態にしてから、「はい、三つ。」と言って、「1・2」の次の数「3」を実感させます。



②取り分けさせて「三つ」（2歳・3歳）

次の段階が「たくさんある中から三つを取り分ける」レベルです。

これは三つ（3個）の意味が分からないと実行できません。

幼稚園の考査でも3年保育では「ここから三つ取ってください。」、2年保育では、一つ置いてある基石に「ここから取って四つにしてください。」といった問題が出されています。取り分けているうちに指定された個数を超えて並べてしまう子が少なくありません。

この問題は数の概念の発達だけでなく、取り分ける勢いに流されず指定個数で踏みとどまれるかを見ることができます。お手伝いなどを通し、家族に物を取り分ける経験を積ませておきましょう。